

ササ一斉開花等に関わる情報交換会を開催

【愛知所】10月19日、愛知森林管理事務所において、「ササ一斉開花等に関わる情報交換会」を開催しました。

当所では、平成28年6月に段戸国有林(愛知県設楽町)で120年に一度と言われるササの一種「スズタケ」の開花が確認された以降、過去にササ一斉開花時にササの実を餌に野鼠が異常繁殖し、造林木への甚大な被害が発生した記録等を踏まえ、森林の影響調査等を国立研究開発法人 森林総合研究所、愛知県等と連携して実施してきたところです。

今回の情報交換会はこの二年間行ってきたササの「開花状況調査」「結実量調査」「野鼠生息予察調査」についての調査結果報告と意見交換を行いました。



ササの開花



意見交換の様子

開花状況調査報告では、段戸国有林におけるササの開花は平成28年度が前ぶれ咲きで、ササ群落全体の開花率は15%程度、平成29年度は本開花です。群落全体の開花率は80%程度で、平成30年度に遅れ咲きとして残りの5%が開花する見込みとの報告がありました。また、結実率も同程度との報告がありました。

野鼠生息予察調査報告では民有林と国有林においてトラップによる調査を夏と秋の二回行ったところ、最大で^{1ヶ所}あたり10匹(木をかじるハタネズミ類は最大3匹)を捕獲したとの報告がありました。

意見交換では、「野鼠の大量発生の可能性は」、「殺鼠剤散布の必要性は」など今後の野鼠被害対策への対応についての意見が多くありましたが、今回実施した野鼠発生予察調査が被害発生を危惧する捕獲数にはなっていないことから当面野鼠の駆除対策は必要ないと判断しました。

また、「草地に隣接する国有林での野鼠生息予察調査が必要では」、「中部森林管理局管内全域のササの開花状況の把握が必要」などの意見もあり、それらを踏まえ今後も継続的な調査を行っていくことを確認しました。

当所としては、関係機関と連携を図る中で調査結果のデータベース化を図るとともに、今後とも春先の苗木の被害状況やササの開花状況を引き続き注視していくこととしています。